

教えて!

vol.63

テーマ

今月のドクター

市立病院

動脈硬化が原因で 起きる動脈の病気

副院長兼
心臓血管外科長
佐藤洋一 医師



動脈硬化とは、高血圧や高脂血症（コレステロールや中性脂肪が高い状態）、高血糖、肥満、たばこなどが影響して動脈が硬くなることです。下肢の動脈の中に硬いゴミが溜まり、動脈が狭くなったり塞がったりする病気は、下肢閉塞性動脈硬化症と言います。また、胸やお腹の大きな動脈が硬くなって徐々に膨らんで瘤になる病気を大動脈瘤と言います。

下肢閉塞性動脈硬化症の症状は、十分に血が流れないため、歩くとふくらはぎがはって痛くなる、足の色が悪くなってじっとしていても痛みを感じる、足の趾に潰瘍や黒ずみができてなかなか治らないなどです。放置すると歩けなくなるだけでなく、足や趾の切断につながる恐れもあります。大動脈瘤はかなり大きくなると症状はでません。大動脈が破裂して大出血した時に初めて症状（痛み）がでることも多いです。早期発見には人間ドックや健康診断で、胸部レントゲン検査や腹部超音波検査を受ける

ことが有効です。

治療ですが、下肢閉塞性動脈硬化症に関しては、膝から上の病変であればカテーテル治療が主役です。最近ではステントグラフトというバネがついた人工血管を動脈の中に挿入する治療も出ました。また、膝から下の細い動脈の病変なら自分の皮下静脈を用いてバイパス手術を行った方が良いです。大動脈瘤に関しては、ステントグラフトでできれば、切開部分が小さく手術時間も短いため体の負担が少ないですが、大動脈瘤の形と部位が悪ければ瘤をとって人工血管を縫い付ける大きな手術が必要となります。どちらの病気もまだ軽いうちに治療すれば体への負担が少ない方法でできる可能性が高いと考えます。

<市民公開セミナーを開催します>

- 日時／7月28日(土)開場9時30分・開園10時
- 場所／すこやかセンター ■参加費／無料※申込不要

■問合せ／市立病院総務課企画財務担当 ☎ 22-2450